

平成 27 年度労災疾病臨床研究事業費補助金事業 研究結果の概要

研究課題 : 運動器外傷診療の質向上を目指した探索的研究
～初療からリハビリテーション、社会復帰まで～
研究代表者: 独立行政法人労働者健康安全機構
横浜労災病院 運動器センター 三上 容司

1. 研究結果の概要

- ・日本骨折治療学会が開始した症例登録システムである DOTJ (Database of Orthopaedic Trauma by JSFR) と互換性を有する運動器外傷登録システムを開発した。
- ・DOTJ の調査項目を基盤に、さらに、患者立脚型アウトカム評価項目、リハビリテーション、社会復帰、医療経済に関する項目を追加し、本研究の目的に沿った調査項目とした。患者立脚型アウトカム尺度としては、全般的健康尺度として EQ-5D、SF-8 を、上肢・下肢機能評価として、DASH と LEFS を、心理的尺度として TSK-J を選択した。また、登録症例の観察期間は 2 年間とした。
- ・18 歳～65 歳の四肢・骨盤骨折患者を対象に、平成 27 年 11 月より症例登録を開始し、平成 28 年 3 月 31 日までに 217 例が登録された。

2. 研究により得られた成果の今後の活用・提供

第 30 回日本外傷学会 (平成 28 年 5 月 30 日、31 日、東京)、第 42 回日本骨折治療学会 (平成 28 年 7 月 1 日、2 日、東京)、第 64 回日本職業・災害医学会 (平成 28 年 10 月 22 日、23 日、仙台) にて、研究成果を発表する予定である。

3. 研究の実施経過

平成 27 年 4 月 1 日、研究に関するホームページを作成、オープンした。運動器外傷診療の症例登録によるデータ収集・解析を行う本研究を RODEO (Rosai Orthopaedic trauma Database for Exploratory Outcome) study と名付け、研究の意義、目的等をホームページ上に公開した。

平成 27 年 5 月 22 日、神戸国際会議場において、第 2 回 RODEO study 研究者会議を開催し、討議、情報共有の上、症例登録システムの構築作業を続けた。試験運用後、平成 27 年 11 月 13 日より、本運用開始。平成 27 年 11 月

21 日に第 3 回 RODEO study 研究者会議を開催し、症例登録システムの運用開始をアナウンスし、各施設での登録開始にむけての促進活動を行った。この間、研究代表者の施設において、IRB の承認を受け、研究分担施設においても、逐一、IRB への申請手続きが進められ、順次承認された。

また、平成 27 年 11 月 22 日には、第 63 回日本職業・災害医学会において、本研究の概略、進捗状況について報告した。

平成 27 年 3 月末日時点で、症例登録予定施設 10 施設中 6 施設で登録が開始されている。

4. 今後の展望

- ・さらなる症例集積を目指し、症例登録施設の拡大を図る。
- ・患者年齢、性別、職業、受傷機転、骨折部位、開放性・閉鎖性、手術法など基本情報の解析を行う。
- ・術後 6 ヶ月～1 年経過した症例が集積したら、感染、QOL、復職等に関連する要因を分析する予定である。